

解 答

- 一 問一 ① まだ十五の子供である松之丞を同盟に加えても迷惑になるだけだ。 ② 4
 問二 命に代えてでも主君を死に追いやった敵を討つ。
 問三 3 問四 1
 問五 松之丞から今一度直接に訴えさせよう 問六 2 問七 2・5 問八 1
 問九 1 × 2 × 3 ○ 4 × 5 ○ 6 ○ 7 ○ 8 ×
 問十 4 問十一 2
- 二 問一 a 2 b 4 問二 ア 4 イ 3
 問三 言葉にしなくとも自分のことを理解してくれる存在。 問四 何らかの言葉によるコミュニケーション
 問五 ① わたしのほ
 ② くしをこわしたのはわたしではないという抗弁をみんなにきいてもらえなかったこと。
 問六 A 4 B 5 問七 3
 問八 受験校を決める時に、私のことなら何でもお見通しだった母との間に初めて「しきり」が生まれたようです。男子と話すのが苦手だから女子校に行きたいことは知っているはずなのに、なぜ共学校を勧めるのか理解に苦しみました。そこで父に意見を求めると、どちらも視野が狭いことを指摘してくれました。「しきり」の障害に直面した時、客観的に判断できる第三者の存在が大きいと感じました。
- 三 1 器械 2 包帯 3 群（れる） 4 札 5 敗色
 6 き（く） 7 いとな（む） 8 よきよう